



### 財政が厳しい中でも充実した行政サービスを維持

市民一人当たりの市税収入が他都市より少ない中、全国トップ水準の福祉・医療・教育・子育て支援などを実施し、その水準を維持するため、職員数の削減や事業の見直しなどの行財政改革を行ってきました。

税収増の取組や行財政改革を実施してもなお、支出が収入を上回る状況が続いており、将来の借金返済の積立金(公債償還基金)などを取り崩し、将来世代へ負担を先送りしている状態です。

### 今後の収支見通しと財政再生団体になる危機

市税収入の回復が見込めない中、社会福祉関連経費の増加が続くことで、今後、毎年度500億円もの財源不足が見込まれており、最悪の場合、財政再生団体になると、最低限の行政サービスしかできず、税金やさまざまな料金が値上げとなります。

### 今後の改革の視点 ~最悪の事態を回避し、明るい未来を展望~

市の財政状況や各施策の効果等を市民の皆様と共有し、市民の皆様のご理解のもと、真に必要な施策を持続可能にするための事業見直しや、公共施設の適正管理・受益者負担の適正化等に取り組むとともに、若者や企業の定着を図り、支え手を増やすことで税収増につなげ、すべての世代が暮らしやすく、魅力・活力あるまちを目指します。

### 区民主体の計画

区民の想いを反映した区民主体の計画とします。

### 第2期計画の継承・発展

「第2期山科区基本計画」の考え方、「人づくり」「融合」「共汗・協働」を継承しながら発展させた計画とします。

### 社会の潮流を踏まえた時代にあう計画

人口減少・少子化・高齢化の加速、コミュニティ機能の低下、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行、自然災害による被害の拡大、京都市財政の危機的な状況、レジリエンス\*やSDGs(持続可能な開発目標)\*の考え方の広がりなど、社会の潮流を踏まえ、未来の山科区を見据えた計画とします。

### 未来の山科のまちづくり戦略との整合

「京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略」の内容を踏まえた計画とします。

### 山科区のすべての関係者で連携・協働

区民・地域団体・企業・事業者・学校・行政など、山科区のすべての関係者がひとつになって、連携・協働しながら計画を進めていきます。



\*レジリエンス:さまざまな危機からの回復力、復元力、強靱性(しなやかな強さ)を指す。

\*SDGs(持続可能な開発目標):平成27(2015)年の国連サミットで採択された、令和12(2030)年までを期間とする国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットを定めたもの。

第3期山科区基本計画の策定に当たり、山科区の魅力や課題、次世代に継承すべきこと、より良いまちとするため取り組むべきこと、将来像などを、「山科区民まちづくり会議」や山科区自治連合会連絡協議会総会「明日の山科を考える」などにおいて、語り合いました。

## I-1. 山科区の魅力

### 〈魅力その1〉 地域力・つながりが強い

各学区において自治会などによる活発な地域活動が行われており、さらには地域の健全なコミュニティづくりのために、連帯感を育成、高揚することを目的として、毎年山科区をあげて「ふれあい“やましな”区民まつり」や「山科義士まつり」が開催されています。



### 〈魅力その2〉 安心・安全のまち

山科区民の「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識のもと、積極的な安心・安全の取組が続けられています。刑法犯認知件数は、平成22年からの9年間で約70%以上減少(令和2年暫定値)しています。

### 〈魅力その3〉 交通の利便性が高い

山科区は、JR線、京阪京津線、地下鉄東西線の3路線が走っており、京都の東の玄関口として、交通の要衝となっています。山科駅(JR、京阪、地下鉄)の乗降客数は、京都市内では京都駅(JR、近鉄、地下鉄)、烏丸駅(阪急)・四条駅(地下鉄)に次いで、3番目に多くなっています。また、山科区内には2つのインターチェンジ(名神高速道路京都東IC、第二京阪道路山科出入口)があり、高速道路へのアクセスも良好です。



### 〈魅力その4〉 1400年を超える歴史と豊かな自然

悠久の歴史を背景に、勸修寺、随心院、毘沙門堂の門跡寺院や国宝を有する安祥寺、赤穂義士ゆかりの岩屋寺や大石神社など、山科区は多くの歴史・観光資源に恵まれています。山科疏水(琵琶湖疏水)沿いの緑道は憩いの場として整備され、森林や河川など豊かな自然を身近に感じることができます。

## I-2. まちづくりの課題

第3期山科区基本計画が山科区の現状に即したものとなるよう、下記の新たな視点・社会潮流を考慮して、今後のまちづくりの課題を整理しました。

### 新たな視点・社会潮流

#### SDGs(持続可能な開発目標)

##### 達成への取組

誰一人取り残さない多様性に寛容なまちづくりを推進する必要があります。

#### レジリエンスの重要性

人口減少や自然災害、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行をはじめとする様々な危機に対し、粘り強くしなやかに対応するレジリエンスを高めるまちづくりを推進する必要があります。

### 山科区の課題

#### 環境

- 山科区の美しく豊かな自然環境の保全活動を通じて、美しい自然を次世代へ受け継ぐとともに、まちへの愛着や誇りを育てていく必要があります。
- 区民一人ひとりが環境問題に関心を持ち、身近にできることから実践し、環境にやさしいまちづくりを推進していく必要があります。

#### 交通・都市基盤

- 自然災害に対する意識を高め、地域防災の取組を強化する必要があります。
- 都市基盤の整備と共に公共交通の充実など、交通環境の利便性を高める必要があります。
- 歩いて楽しいまちづくりと共に、公共交通などを利用し、マイカー使用を抑制する必要があります。
- IoT\*やAI、自動運転などの新技術やMaaS\*の活用など、新しい交通体系を意識する必要があります。

#### まちの魅力・観光

- 区内に点在する歴史・文化などにまつわる観光資源について、地域の活性化に資するよう、山科区の魅力や特徴をいかした観光の在り方を検討していく必要があります。
- 「京焼・清水焼」や「山科なす」をはじめとした伝統産品・農産物などの魅力を地域内外に発信するなど、地域の産業振興を推進していく必要があります。

#### 地域のつながり

- 地域のつながりの要となる自治会・町内会の意義を理解してもらうことで、加入を促進する必要があります。
- 様々な世代間の交流や同じテーマに興味をもつ人たちの交流など多様な形で地域のつながりを広めていく必要があります。

#### 保健・福祉・子育て

- 課題を抱えている人に早期に気づき、支援に結びつける体制をつくる必要があります。
- 誰もが日常の中で健康意識を高め、いつまでも笑顔で健康に暮らせるよう、地域ぐるみで健康づくりを推進する必要があります。
- 高齢者が地域で見守られながら、生きがいを持っていきいきと健やかに暮らせることが大切です。
- 障害のある人が地域の中で孤立しない共生社会をつくる必要があります。
- 新婚世帯や子育て世帯が「山科区に住んでみたい」「山科区に住み続けたい」と思えるよう、地域ぐるみで子育て支援に取り組むとともに、山科区の魅力を発信する必要があります。
- 地域ぐるみで学校教育を応援するとともに、若者の成長を応援する必要があります。

\*IoT:「Internet of Things」の略であり、あらゆるモノがインターネットにつながり、相互に通信し合う技術。

\*MaaS(マース):「Mobility as a Service」の略であり、出発地から目的地までの移動ニーズに対して、最適な移動手段を途切れなく提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者の一元的なサービスとしてとらえる概念。

## I-3. 将来像

区民・地域団体・企業・事業者・学校・行政など、山科区のまちづくりに関係するみんなが共有する、山科区のめざす将来像を次のとおり定めます。



### 「心豊かな人と緑の“きずな”のまち山科」



きずな

#### 地域力が支える暮らしの安心・安全が息づくまち

- 山科区のまちづくりの礎である「地域力」、人と人との「つながり」が継承され、安心・安全な暮らしを支えています。
- 自治会や各種団体などが連携し、区民主体の多様なまちづくり活動が展開され、人と人のきずなが強まり、山科区の暮らしやすさ、居心地の良さが実感できます。



心・人

#### あらゆる世代が元気で笑顔あふれるまち

- 子どもから大人、高齢者も障害のある人も、一人ひとりが心身共にいきいきと輝き、活躍できます。
- 区民の誰もが「山科区に住んでよかった、住み続けたい」と実感でき、さらには多くの皆様から「山科区に住んでみたい」と思っている。



緑

#### 水と緑が暮らしに寄り添う、環境にやさしいまち

- 区域を流れる河川、疏水、三方の山々をはじめとした豊かな自然は、身近な水と緑のうおい空間として保たれ、多様な生物を育てています。
- うおい豊かでみずみずしい都市空間・生活空間が形成され、美しいまちづくりが継承されています。
- 環境共生と脱炭素化のまちづくりを実践し、地球環境を大切に、快適で安心・安全な暮らしが営まれています。



魅力

#### 人を惹きつける魅力あふれるまち

- 1400年を超える歴史と伝統、産業、それを支える優れた技術や匠の技が受け継がれ、まちは活性化し魅力にあふれています。
- 一人ひとりが地域の魅力を知り、味わい、楽しみ、高め、区内外に発信することで、その魅力は多くの人に伝わっています。

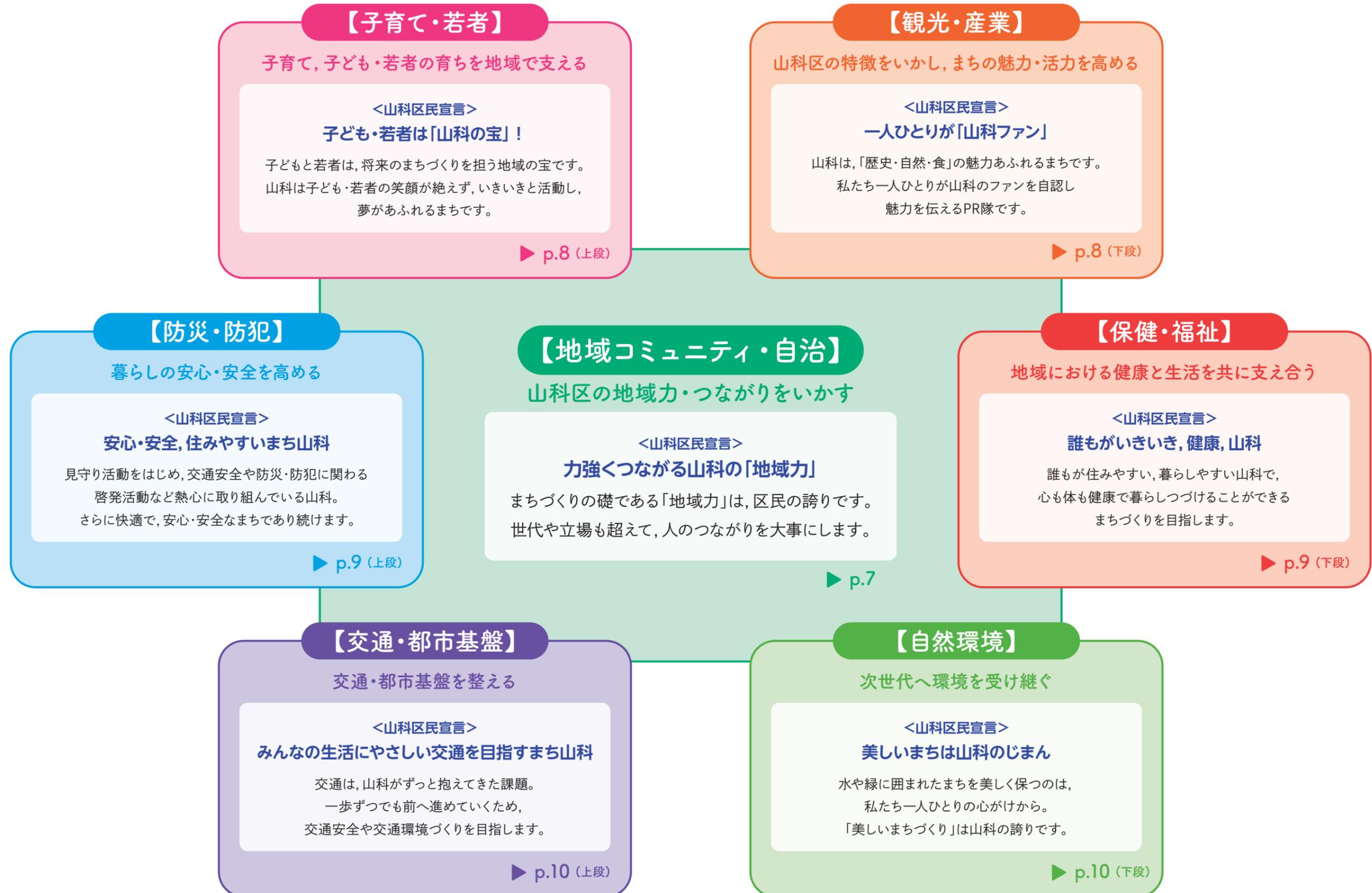
## II-1. まちづくりのテーマと<山科区民宣言>

まちづくりの課題を踏まえて、将来像を実現するためのまちづくりのテーマを、以下のように7つのテーマに再構成します。

山科区のまちづくりにおいて最も大切にすべきは、山科の強みである「地域力・つながり」です。

「地域力・つながり」を基盤として、あらゆる課題に対してしなやかで持続可能なまちづくりを展開します。

また、まちに関わるすべての人がまちづくりを自分ごととして考え、行動するための共通の目標として <山科区民宣言> を掲げます。



## II-2. まちづくりのテーマと取組

p.5に示したまちづくりの7つのテーマに関する詳細と、これから5年間に取り組む内容をテーマごとにまとめました。

### 【地域コミュニティ・自治】

#### 山科区の地域力・つながりをいかす



「地域力・つながり」は、この計画の基盤となるものです。山科区ならではの「地域力・つながり」は、大切にすべき伝統、地域の財産であり、次世代へ継承すべきものです。また、コロナ禍を契機に自宅で過ごす時間が増加し、地域をつながりや交流、集うことの大切さが再認識されています。

一方で、自治会や町内会は、加入率の低下や役員の高齢化などの課題を抱えています。また、人口減少や少子化により、地域活動の担い手が減少しています。

「私とは関係ない」と思わず、自分ごととして考え、地域に関心を持ってできることから始め、SNSなどのツールを活用しながらまちづくりの参加の輪を広げるとともに、次世代の地域活動の担い手の育成を進めていきます。

山科区では、これまでの積極的な地域活動により、刑法犯認知件数が大幅に減少するなどの成果が現われており、山科区はすべての世代の方にとって、住みやすい安心・安全のまちへ変貌を遂げています。

これらの実績を向上させるとともに、山科区内外へ「山科区の魅力」を効果的にPRすることで山科区のブランディング\*を図り、定住人口の増加、活力ある地域の創出へつなげます。

#### ① 地域のつながりを 深め強める

- これまで培ってきた地域活動を継承・発展させる
- 自治のつながりを次世代へ継承する
- 自治会や各種団体などの交流を深める
- 一人ひとりが自分ごととして地域に関わり合うことで豊かな人間関係を育む
- スポーツやイベントなどを通じた地域交流を促す

#### ② 地域のつながりを 広め強める

- テーマ型など新たなコミュニティの形成を促す
- 地域活動を担う層の拡大を促す
- 大学、地域、行政などの連携を一層広げる
- 多文化共生を推進する
- まちづくりをサポートする情報を発信する



\*山科区のブランディング:山科区の暮らしやすさなど、山科区の魅力をコンテンツ化し、特に住宅購入層や子育て世帯へ広く発信することで、山科区への移住を促進し、定住人口の増加につなげる取組。

### 【子育て・若者】

#### 子育て、子ども・若者の育ちを地域で支える



子どもと若者は、将来のまちづくりを担う地域の宝です。区民・地域団体・企業・事業者・学校・行政などが一体となって、地域ぐるみで、妊娠前から子ども・若者まで切れ目のない支援を推進します。

地域の見守り、地域との関わりのなかで、安心して子育てでき、子ども・若者が将来の展望を持って成長できるまちづくりを進めることにより、次世代を担う子ども・若者や新婚世帯、子育て世帯が「山科区に住んでみたい」「山科区に住み続けたい」と実感できるまちを目指します。

#### ① 地域ぐるみで 子育てを見守る

- 地域ぐるみで子どもを見守る
- 子育てに課題や困難を抱えた家庭への寄り添い支援を行う

#### ② 地域ぐるみで 子どもの学びを応援する

- 地域ぐるみで小・中学校等の学校教育を応援する
- 校外で子どもたちが学び・成長する場づくりを進める

#### ③ 子育て世帯に 保健福祉サービスと 保育・幼児教育を提供する

- 子育て世帯を切れ目のない保健福祉サービスで支援する
- 保護者のニーズに対応した保育・幼児教育を提供する

#### ④ 子育て世帯の交流を促し ネットワークをつくる

- 子育て世帯を地域全体で温かく見守る
- 地域の子育て施設や子育てサロン・子育てサークルでの交流を促す

#### ⑤ 若者の成長と 社会参加を応援する

- 若者の居場所づくりや様々な経験・交流の場づくりを進める
- 若者の自治活動・地域活動への参画を応援する

### 【観光・産業】

#### 山科区の特徴をいかし、まちの魅力・活力を高める



1400年を超える歴史を有する山科区は、歴史・文化資源や豊かな自然に恵まれており、交通の要衝としても栄えてきました。山科区の特徴を深掘りし、広く発信しながら、山科区の魅力や特徴をいかした観光振興や産業振興に取り組むことで地域内の経済循環を図り、まちの活力を高めていきます。あわせて、地域の歴史・文化資源や伝統行事・農業などに区民が親しみ学ぶ機会や、暮らしの中で地域の豊かさが実感できる機会を増やし、山科区への愛着、誇りを醸成します。

#### ① 暮らしに根ざした 観光に取り組む

- 山科区の魅力や特徴をいかした観光に取り組む
- 区民が育む観光に取り組む
- 区をあげて山科区の魅力のPRを行う

#### ② 地域資源をいかし 産業を振興する

- 特徴ある産業の魅力のPRを行う
- 地域と学校・教育機関との連携を強化する

#### ③ 文化力を基軸として 社会的・経済的価値を 創出する

- 文化の力で社会的・経済的価値を創出する
- 文化力で地域活動を活性化する
- 生涯学習を盛んにし、学び続ける風土を醸成する

【防災・防犯】

暮らしの安心・安全を高める



安心・安全は、快適な社会生活を営むために必要不可欠です。災害や気候変動による被害を最小限にとどめるためには、「自分の命は自分で守る」という一人ひとりの意識、普段からの地域の関係づくりが大切です。また、「山科区が良くなった」という実感を、一層高めるべく、「地域の安心・安全は地域で守る」という意識で、区民・地域団体・企業・事業者・学校・行政などが連携を強化し、暮らしの安心・安全を高めていきます。

- ① **災害への意識を高め、防災の取組を強化する**
  - 一人ひとりの「防災力」を高める
  - 地域防災組織の機能を強化し、助け合える体制を整備する
  - 災害に備えて地域・企業・行政・医療機関などの連携を強化する
  - 総合的な防災・危機管理体制を強化し、災害に強いまちづくりを推進する
- ② **暮らしの安心・安全を支える**
  - 地域の防犯対策を継続・発展させる
  - 生活安全の取組の充実を図る
  - 交通安全の取組の充実を図る

【保健・福祉】

地域における健康と生活を共に支え合う



住み慣れた地域でずっと安心して暮らしたい。これは、みんなの願いです。その思いを実現するために、区民・地域団体・企業・事業者・学校・行政などが連携し、地域におけるつながりを強化し、共に支え合うまちづくりを進めます。また、地域や人とのつながりの中で一人ひとりが健康づくりに取り組むとともに、地域全体で健康づくりに取り組んでいく環境整備を進めます。

- ① **全世代型の地域共生社会を進める**
  - 地域福祉のネットワークを強化する
  - 人権文化が息づくまちづくりを進める
  - 多文化共生を推進する
  - ユニバーサルデザインの普及、推進を図る
- ② **高齢者の暮らしの安心と生きがいをつくる**
  - 高齢者がいきいきと活動できる場をつくる
  - 地域で見守る・支える体制を強化する
  - 安心の環境整備を充実させる
- ③ **障害のある人の社会生活を応援する**
  - 障害のある人とその家族への生活支援を充実させる
  - 障害についての理解を深め、地域で支える環境づくりを進める
- ④ **区民の健康をつくり、守る**
  - 健(検)診の実施と健康教育・相談を充実させる
  - 区民主体の健康づくりを推進する
  - 地域医療体制を充実させる

【交通・都市基盤】

交通・都市基盤を整える



山科区は、幅員の狭い道路が多く存在するなど、交通安全・交通ネットワーク上の課題を抱えています。安全で快適な道路空間の整備や改善を進めるとともに、地域の協働で安全な交通環境づくりに取り組みます。また、公共交通の利便性を向上するとともに、高齢化などにより移動が困難となりつつある住宅地における交通環境の改善などに地域との協働で取り組みます。あわせて、「京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略」などを踏まえ、土地利用や都市機能の在り方について検討を進めます。

- ① **道路を快適にする**
  - 安全で快適な道路空間の整備・改善に取り組む
  - 幹線道路網の交通対策に取り組む
- ② **公共交通の利便性を高め利用を促す**
  - 公共交通の利用を促す
  - 地域を支える公共交通の充実を図る
  - 新たな交通手段を検討する
- ③ **山科区の持続的な発展に向けた土地利用を目指す**
  - 「京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略」や「京都市持続可能な都市構築プラン」を踏まえたまちづくりを推進する
- ④ **良好な景観を形成する**
  - 良好な都市景観を創出する
  - 美しい自然的・歴史的景観を保全・継承する

【自然環境】

次世代へ環境を受け継ぐ



恵まれた自然環境を維持・保全するために、地域ぐるみで美化・緑化活動に取り組むことで「美しいまちづくり」が定着しています。脱炭素社会の実現に向けて、ライフスタイルの転換による省エネルギー化の徹底と再生可能エネルギーの普及拡大に努めます。また、豊かな自然環境・生活環境を次世代に継承するため、一人ひとりが身近にできることから取り組み、環境を保全する意識と習慣を醸成します。

- ① **まちのうらおい・自然を大切に**
  - 生物多様性を尊重し、自然環境を保全する
  - まちの緑を増やす
- ② **ごみのないまちをつくる、ごみの出ない暮らしを営む**
  - 清掃・美化の活動を充実する
  - ごみの出ない循環型のまちを構築する
- ③ **地域から省エネルギー化を考え、実践する**
  - 徹底した省エネルギー化を進める
  - 再生可能エネルギーの普及を進める
  - 環境にやさしいライフスタイルを営む
- ④ **環境について学び行動する**
  - 学校などと連携し、環境保全活動の担い手を育成する